

知っておきたい「大人のワクチン」

帯状疱疹ワクチン



任意接種

帯状疱疹は、水痘などの疹が神経に沿って帯状に出現する疾患です。成人のほとんどがすでに水痘・帯状疱疹ウイルスに感染し、体内で長期間潜伏しており、主に50代以降で免疫が低下した際に再活性し、「帯状疱疹」として発症します。重要な合併症は帯状疱疹後神経痛で、帯状疱疹患者の10～50%に出現し、高齢になるほど多くみられます。抗ウイルス薬による早期治療は有効であり、ワクチンは帯状疱疹の発症や重症化の予防が期待できます。

・接種対象者：50歳以上、または帯状疱疹に罹患する可能性が高い18歳以上

種類	生ワクチン	組換えワクチン
商品名	ビケン®	シノブリックス®
接種方法	皮下注射	筋肉注射
発症予防効果	69.8%	96.6%
接種回数	1回	2回
持続性	5年程度	10年程度

・接種費用：広島県では全額自己負担
帯状疱疹ワクチンは2種類あります。接種を希望される方は、かかりつけ医にご相談ください。

風しんワクチン



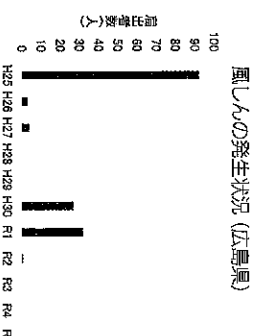
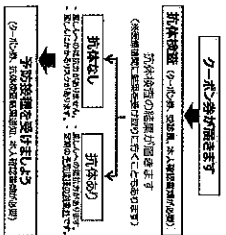
抗体検査と定期接種、任意接種

・抗体検査対象者：昭和37年度～昭和53年度生まれの男性
令和7年3月31日までの3年間に限り、風しん抗体検査・予防接種(定期)を公費で受けられます。

上記の人には、お住いの市町からクーポン券が送られていますので、ご確認ください。

抗体検査・予防接種の流れ

(例：広島市)



抗体検査で十分な抗体がなければ、ワクチン接種が勧められます。
・抗体検査などの費用：全額公費負担

風しん(三日はしか)は、成人で罹患すると症状が重たくなる傾向があり、さらに妊娠初期の妊婦が感染すると先天性風しん症候群の児が生まれることがあります。以前には広島県で風しんが流行した時期もありましたが、小児期の風しんワクチン2回接種が進み、感染者は激減しました。しかし、昭和37年度～昭和53年度生まれの男性は過去に公的予防接種が行われていないため、自分が風しんにかかり、家族や周囲の人たち、時には妊娠前や妊娠中の女性に感染をを広げまうおそれがあります。無料の抗体検査を受けましょう。詳しくは市町のHPをご覧ください。任意接種も可能です。

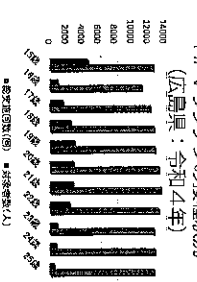
HPVワクチン



キャッチアップ接種、定期、任意接種

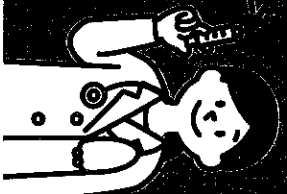
ヒトパピローウイルス(HPV)は性的接触により感染します。感染すると子宮頸がん、肛門がんなどの悪性腫瘍や尖圭コンジローアの性感染症を発症することがあります。特に若い女性に増加している子宮頸がんは、がん検診による早期発見と共にHPVワクチン接種による予防が重要です。HPVワクチンは、国が積極的な勧奨を一時的に差し控えた時期がありました。令和4年4月からは接種勧奨を再開しています。2価(サーバリックス®)、4価(ガーダシル®)、9価(シルガード9®)の3種類のワクチンがありますので、接種についてはかかりつけ医療等にご相談ください。また、接種後の副反応については相談センターや市町にご相談ください。

・接種対象：①定期接種(小学校6年生から高校1年生相当の女性) ②キャッチアップ接種：誕生日が平成9年4月2日～平成19年4月1日の女性のうち、これまでHPVワクチンの定期接種を逃した人は令和7年3月末までは公費で接種を受けることができますが、令和6年9月までに接種を開始しなければ公費接種可能な期間内に接種が完了しないので注意してください。③任意接種(①、②以外の方)
・接種費用：①、②は全額公費負担 ③は全額自己負担

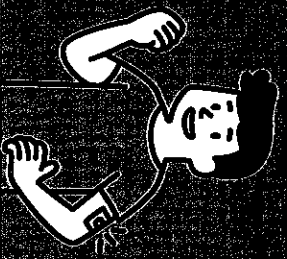


リーフレットに関するお問い合わせ：広島県地域保健対策協議会事務局(広島県医師会内、TEL 082-5668-1511)
その他の相談、お問い合わせ：最寄りの保健所・保健センターまで

知っておきたい「大人のワクチン」



ワクチンは感染症予防に大切です。「大人のワクチン」最新情報を確認して、接種対象者は期間内のワクチン接種をご検討ください。詳しくは、かかりつけ医、お住いの市町にお問い合わせてください。また、各ワクチンのQRコードからは病気やワクチン情報をさらに知ることができます。

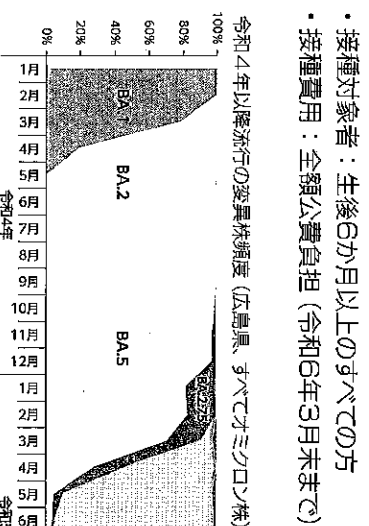


新型コロナワクチン(XBB.1.5対応ワクチン)



特例臨時接種

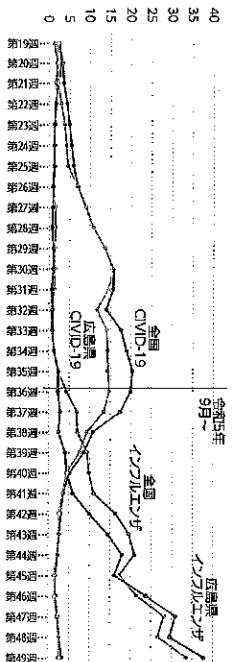
令和2年1月から国内で流行が始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和5年5月8日から5類感染症となりました。この間、広島県内では80数万人が感染し、新型コロナウイルスによる死亡者は1,300人を超えています。後遺症に苦しんでいる人も少なくありません。症状悪化や後遺症にワクチンは効果的とされ、令和5年秋からは新しくXBB.1.5対応ワクチンとなりました。新型コロナウイルスは当初から変異を繰り返し、デルタ株に続いて約2年前からオミクロン株となり、現在はオミクロンXBB株などが流行の主体となっております。以前のワクチンと比べて有効性がさらに期待できます。



- ・接種対象者：生後6か月以上のすべての方
- ・接種費用：全額公費負担(令和6年3月末まで)

インフルエンザワクチン

COVID-19、インフルエンザ 定点報告数(通知)
令和5年第19週(5月8日~14日)から第49週(12月4日~10日)まで



インフルエンザは風邪症状と共に発熱、頭痛、筋肉痛などの全身症状が出る。1月、2月をピークとする冬の定番感染症です。

肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は肺炎、敗血症、髄膜炎などの重要な原因菌で、特に高齢者では死亡につながる可能性があります。重症化を予防するために、感染を起こす主要型を含んだ肺炎球菌ワクチンが65歳以上の高齢者(65歳以下は重大な基礎疾患がある方)に勧められます。多糖体ワクチン(ニューモバックス®)は、定期接種対象者あてに市町から案内されます。1回目接種5年後には追加接種が必要となります。結合型ワクチン(プレバナー®、パクニユバックス®)は任意接種で、全額自費となりますが、抗体産生のみならず免疫記憶も得られるために、一生に1回の接種です。

- ・接種対象者：①65歳以上で5歳ごとの年齢の人 ②60~64歳で、心、腎、肺、エイズで障害が強い人



定期接種、任意接種

軽症で安静だけで治癒することもありますが高齢者では肺炎や基礎疾患悪化で重症化する人もいます。感染早期からのインフルエンザ治療薬投与は有効ですし、感染前のワクチンも重症化を軽減します。年ごとに流行するウイルスが変化するため、4種(A型のH1N1亜型とH3N2亜型、B型2種)を含んだインフルエンザワクチンを、毎年10月~12月に接種することが勧められます。

- ・接種対象者：すべての人(成人は1回接種が基本です)
- ・接種費用：65歳以上及び60~64歳で、心、腎、肺、エイズで障害が強い人には一部公費負担があります。



定期接種、任意接種

- ・接種費用：高齢者定期接種1回目は公費負担がありますが、令和6年度からは公費負担対象者が65歳と②の対象者のみとなります。それ以外はすべて任意接種で、全額自己負担です。肺炎球菌ワクチンは2種類あります。接種を希望される方は、かかりつけ医にご相談ください。

種類	多糖体ワクチン	結合型ワクチン
商品名	ニューモバックス®	プレバナー® パクニユバックス®
副反応のカバー	広い	やや狭い
抗体産生	あり	あり
免疫記憶効果	なし	あり
接種間隔	5年空ける	1回のみ
予防接種	定期/任意接種	任意接種

